＜研究ノート＞

筑波学院大学オフ・キャンパス・プログラムにおけるルーブリックの検討

～ステークホルダー（学生・卒業生・受入団体）による評価指標～

松﨑　茂樹*・武田　直樹**

Examining the Rubrics of Off Campus Program at Tsukuba Gakuin University

—Evaluation Indicator by Stakeholders (Students, Graduates, and Host Organizations)—

Shigeki MATSUZAKI * and Naoki TAKEDA **

本研究は、筑波学院大学が15年間実施をしてきたオフ・キャンパス・プログラムを評価するために、効果的な検証方法がないかを検討した結果、ルーブリック評価による検証方法を提案し、オフ・キャンパス・プログラムを受講した学生・卒業生、学生の活動の場になった受入団体に向けた評価指標を作成した。本指標を使用することにより、学生・卒業生は自己の立ち位置の確認をし、社会においてどのような人材を目指すのかを考える機会になる。また、受入団体は、学生を受け入れた後の団体の変化について、学生や大学が団体に与えたポジティブな影響について確認する機会となる。

キーワード：オフ・キャンパス・プログラム、社会参加活動、ルーブリック、評価

1．はじめに

1．1．筑波学院大学オフ・キャンパス・プログラム

筑波学院大学では、改組を行った2005年度の入学生より、「社会力」[1)] の育成を目的にした「オフ・キャンパス・プログラム（Off Campus Program 以下 OCP）」を実施している。社会力とは、筑波学院大学初代学長の門脇厚司が生み出した造語であり、「社会を作り、作った社会を運営しつつ、その社会を絶えず作り変えていくために必要な資質や能力」と定義している。筑波学院大学では、この社会力を育むために、OCP を 1 年生、2 年生の必修授業として実施し、特色のある授業として、2019年度で15年目を迎えるプログラ

＊　筑波学院大学総務グループ、Tsukuba Gakuin University
＊＊　筑波学院大学経営情報学部、Tsukuba Gakuin University

ムとなった。1年生では「実践科目A」として、1日の社会参加活動体験、2年生では「実践科目B」として、30時間以上中長期的に受入団体で活動の運営サポートを行い、3年生では「実践科目C」として、自ら社会貢献プロジェクトを企画立案し実践する、3年間のステップアップ型のプログラム構成となっている。なお、OCPの授業では、教員は「ボランティア」という言葉は使用しないように努めている。これは、学生にとっては授業の一環として実施している活動であり、学生が自発的なボランティアで動いているということではないからである。以後の表記として、学生が外部の団体で活動することを「社会参加活動」とする。

1．2．OCPを評価する研究

OCPを評価する研究は、金久保（2009）[2]らによるOCP学生スタッフによる意識調査を通じて、OCPを通じてどのような能力を得ることができたのかという研究から、OCPにおける教育プログラムの有効性について確認されている。また、卒業生に対しても、金久保（2015）[3]によって卒業生の自宅宛に自記入式郵送調査による研究がなされ、回収率が20.1％と低かった。その原因として学籍番号による無作為の抽出法によることと、郵送による調査だったという点、該当学生の卒業後の住所把握ができていないため、該当の卒業生にまでアンケートが届かなかった点も予想されている。回収された回答からは、社会参加活動を肯定的にとらえている卒業生が多く、否定的な評価は10％未満であった。回答のあった卒業生からは、社会に出る前の準備としての経験値を高めるプログラムであったという結果が出ている。

報告書のレベルでは、プログラム開始当初から毎年、実践科目A、B、Cを受講した学生と実践科目Bの学生を受け入れた団体にアンケート調査を実施しており、年次報告書[4]にまとめられている。また、OCP開始から10年の節目では、武田・金久保（2015）[5]によって、OCP10年間の報告がなされているが、これらは、OCPの授業自体の評価まで踏み込んだものではない。

これまで教育機関が在学する受講生に対して、ルーブリック評価を行う実施例は多い。しかし、ルーブリックによる卒業生への追跡調査、受入団体によるプログラム評価は、調べる限り見当たらないため、先駆的な取り組みである。

2．評価方法「ルーブリック」について

ルーブリックとは、成功の度合いを表す数段階程度の尺度と、それぞれの点数に見られるパフォーマンスの特徴を示した記述語（descriptors）で構成されている。[6]筆者の一人である松﨑は、上越教育大学大学院在学時に、教員免許状取得のための教育実習のルーブリック評価を経験しており、本研究での採用を考えた。ルーブリック評価の長所として、成功の度合いを言語化することで、プログラムを受講している学生については、OCPで身につけてほしい能力について知ることができ、受入団体にとっては、学生を受け入れることによる団体の成長や変化についての現状を把握することができる。ルーブリック評価は、次のレベルに到達するために、何ができるようになれば良いのかという、次の目標が見える仕組みにより、次のレベルに向けた動機付けを行うことができる。また、「よくできた・できた・まぁまぁできた」といった抽象的な尺度だと、「授業を終えたからできるようになった」という受講者の立場が主観的な評価をしてしまう傾向があるために、客観的な評価ができないと考えていた。ルーブリック評価は学習者の学びの到達度合いを測るために、前述した教師を養成するための教育実習や、教員評価、または、

児童生徒の学習者を評価する上でも活用される客観的な評価方法として採用されている。ルーブリックの先行的な事例として、上越教育大学の教育実習で使われているルーブリックについて取り上げる。図１は、その一例である。

ルーブリックは柱となる基本的な考え方が大事である。上越教育大学のルーブリックは、教員を目指すための評価法のため、教員として目指すべき姿が柱となる。４つの大項目と９つの中項目、35の小項目があり[7]、評価段階については、３段階や４段階など様々なスタイルがある。

３．筑波学院大学 OCP のルーブリック評価の検討

３．１．筑波学院大学ルーブリック評価の大項目の検討

上越教育大学のルーブリックを参考に、柱となる基本的な考え方となる大項目の選定を行った。筑波学院大学の OCP は、社会力の育成を目的として実施しているが、社会力については、それを構成する具体的な大項目が設定されていないため、本研究では考えの柱として、経済産業省が政策として出している、「人生100年時代の社会人基礎力」を基に考えた[8]。社会人基礎力は、図２に示した通り、2006年に経済産業省が打ち出した、社会人ならば基礎的に備えておく必要がある能力のことである。社会人基礎力とは、「これまで以上に長くなる個人の企業・組織・社会との関わりの中で、ライフステージの各段階で活躍し続けるために求められる力」と定義されている。前述した、社会力の定義が、「社会を作り、作った社会を運営しつつ、その社会を絶えず作り変えていくための資質や能力」としていることから、社会力と、社会人基礎力の定義の共通性を見出し、ルーブリック項目に展開をする時の柱として社会人基礎力の12の能力要素から、ルーブリック項目を検討する事にした。

項目	中項目		小項目	「教育実習ルーブリック」（３年次）教育実習委員会		
				First stage	Second stage	Third stage
Ⅰ 教員として求められる使命感や責任感，教育的愛情等に関する事項		1	内省	教育実習における自己課題を見出し，実習場面ごとに学ぶ視点を明確にしようとする。	教育実習における自己課題を問い直したり，新たな課題を見出したりすることができる。	教育実習における自己課題を問い直したり，新たな課題を見出したり，常に学び続けようとする姿勢をもつことができる。
		2	主体性	主体的・積極的に，教育実習に参加しようとする。	主体的・積極的に，教育実習における自己の職責を果たそうとすることができる。	時と場をわきまえ，主体的・積極的に教育実習における自己の職責を果たすことができる。
	１ 使命感や責任感	3	教育課題への対応	教育実習期間中，直面することが予想される教育課題に対して，基礎的な知識をもつ。	教育実習期間中，日々生起する教育課題に対して，常に謙虚に学ぶ姿勢をもつことができる。	教育実習期間中，日々生起する教育課題に対して，常に謙虚に学ぶ姿勢をもち，その解決の見通しをもつことができる。

図１　上越教育大学教育実習ルーブリック（一部抜粋）

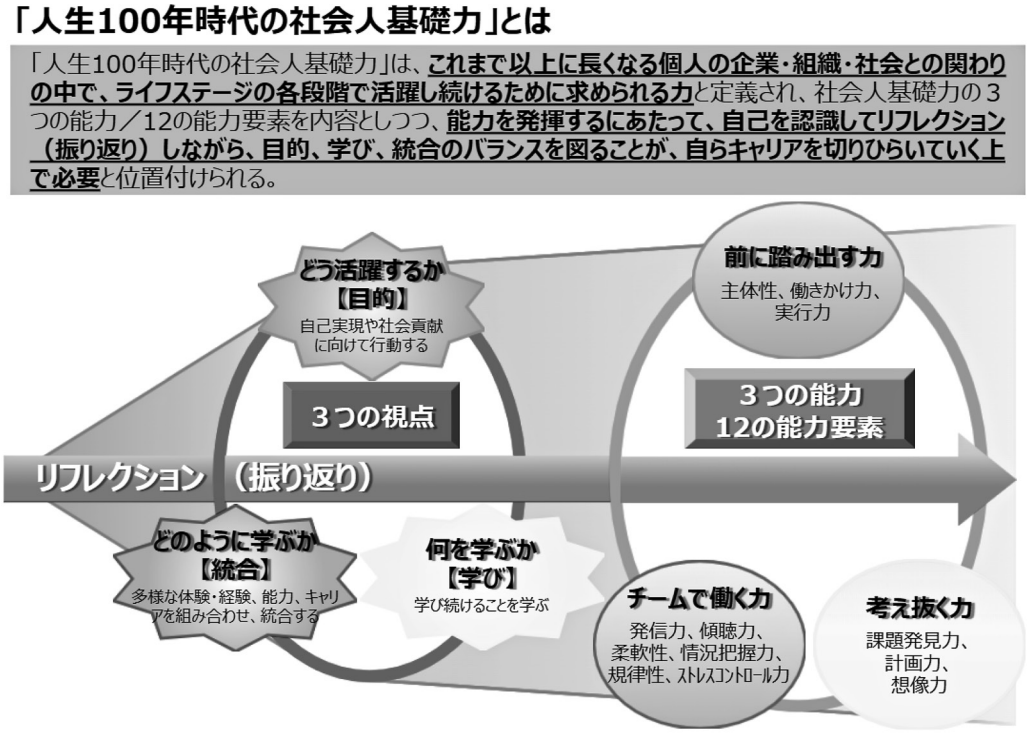

図２　経済産業省　人生 100 年時代の社会人基礎力

３．２．筑波学院大学学生ならびに卒業生ルーブリックの検討

筑波学院大学在籍期間に調査する各観点のルーブリックを、社会人基礎力で示されている12項目を基に、表１～３にまとめた。調査をする時期としては、１年次は前期中盤と終了時、２年次終了時、３年終了時、４年卒業時の計５回を計画している。社会人基礎力として、大学４年間で身に付けてほしい能力を12項目ごとに First stage、Second stage、Third stage と三段階に分類した。Third stage は、大学卒業時に社会人として巣立っていくために必要な力を表している。大学１年次から、ルーブリックを提示して目指すべき社会人像を意識させることにより、これら12の力について意欲的に取り組ませる動機付けにつながるものと考えている。ルーブリック項目の作成に当たっては、高知県教育委員会が高等学校生徒向けに作成したルーブリック評価を資料として手に入れることができた。[9] そこで、同内容の資料を大学が所在する茨城県教育委員会にも同様のルーブリックがないかを調べたが、資料を見つけ出すことができなかった。高知県の他には、福岡県立早良高等学校の「進路基礎力達成ルーブリック」[10] も社会人基礎力の12要素で評価するルーブリックが紹介されている。

大学生向けに社会人基礎力についてのルーブリック評価として、石垣（2016）[11] により、「大学におけるルーブリック評価の開発」がされ、社会人基礎力を涵養するルーブリックの研究がされている。この研究では、社会人基礎力のうち、「主体性」「課題発見力」「発信力」「傾聴力」の４要素について看護学科の学生を対象にルーブリック開発をしている。「大学の教育の質的転換を促すルーブリッ

ク評価について、いかに公平で客観的なものにするかが、各大学で試行錯誤がされている」と述べられている。

これらを参考に、筑波学院大学卒業後に社会に出ていく学生が５年後、10年後にどのような姿になっているか、また、OCP を経験したことにより、どのような社会人になっているかについて検証するルーブリックの検討し、表１～３にまとめた。大学在学時にどのステージにいたのかという点と、学生ルーブリックの First stage～Third stage のその上に、Fourth stage、Fifth stage を付け加えた５段階のルーブリック評価を検討した。社会人として、どのような力を身に着けていなくてはならないかを発展的に検討している[12)]。５段階のルーブリックは、学生と卒業生に対する各項目に社会人基礎力の関連性があることを述べるために、First stage から Fifth stage と連結した構成にしている。

下記の表１～３は、社会人基礎力の12の要素を５段階のルーブリックとして評価項目を検討したものである。表２に関しては、社会人基礎力の要素とは別に「批判力」と言う項目を追加した。これは、「学校教育法第51条３項」の高等学校における教育の目標より、「三　個性の確立に努めるとともに、社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと。」という項目を知り、追加したものである[13)]。

学生向けには、First stage から Third stage を公開し、卒業生向けには、Third stage から Fifth stage までを公開したルーブリックを実施予定である。これは、大学卒業までに在学時に目指す学生像について１年生時点からイメージさせることを意識している。また、卒業生については、会社や企業等の組織に入った際に必要な能力がどの程度身についているかを調べるものとする。First stage については、「心掛けている」という表記に統一をした。これは、１年生前期中に実施するものとして、First stage からスタートしやすいようにしたためである。

３．３．OCP 受入団体によるルーブリックの検討

OCP では、社会参加活動先として外部の

表１　筑波学院大学学生・卒業生ルーブリック（大項目Ⅰ　どう活躍するか）

		学生ルーブリック				
				卒業生ルーブリック		
		First stage	Second stage	Third stage	Fourth stage	Fifth stage
1	主体性	自ら進んで、OCP に参加するように心掛けている。	与えられた OCP における役割と責任を果たせる。	OCP だけでなく、受入団体の一員として、自分の役割と責任を果たせる。	グループのリーダーとして、自分の役割と責任を果たせる。	リーダーを指導する立場として、自分の役割と責任を果たせる。
2	働きかけ力	指導者やグループの仲間と協力して活動するように心掛けている。	グループ活動時に多くの仲間と関わりながら活動ができる。	グループの仲間が公平に関わることができるように周りも巻き込んだ活動ができる。	達成したい目標に向けて、自分だけでなく、周りも巻き込んだ行動ができる。	達成したい目標に向けて、上手くできていない仲間に対しても、達成にむけた導きができる。
3	実行力	グループ内で決めたことを実行するように心掛けている。	グループ内で与えられた役割を実行することができる。	グループ内の仲間に役割を与える行動や声かけができる。	企画を開始してから終わるまでの一連の流れを理解して実行できる。	企画を開始してから終わるまでの一連の流れを、実行するための指導ができる。

表２　筑波学院大学学生・卒業生ルーブリック（大項目Ⅱ　何を学ぶか）

		学生ルーブリック				
				卒業生ルーブリック		
		First stage	Second stage	Third　stage	Fourth stage	Fifth stage
1	発信力	グループ内で出された考えについて賛成か反対かを述べるように心掛けている。	グループ内の話し合いや意見交換で新たな意見を出すことができる。	グループ内で出された意見について、考えを深めるような意見を出すことができる。	グループ内でまとまった意見を、多数の人に向けて発表をすることができる。	グループ内でまとまった意見を、的確に内外の組織に説明できる。
2	傾聴力	話をしている人に向いて、話を聴こうと心掛けている。	相手の話をうなずきやあいづちをうちながら聴くことができる。	相手の話を自分の言葉で言い換えることができる。	相手の考えに寄り添い、意見を理解することができる。	相手の感情や思考に寄り添い的確なサポートができる。
3	柔軟性	相手の意見を一旦は受け入れるように心掛けている。	相手の意見をそのまま受け入れるだけではなく、自分の意見を持つことができる。	相手の意見をそのまま受け入れるだけではなく、自分の意見を述べることができる。	状況に応じて発想の転換ができる。	良いと思う方向の考えに軌道修正ができる。
4	状況把握力	グループ内で何をめざしているのかを理解しようと心掛けている。	グループが今どのような状況にあるのかを理解し、次の行動を考えることができる。	自分の役割を理解し、各人に配慮した行動をとることができる。	グループメンバーの状況を把握することができる。	グループメンバーの状況を把握し、次にするべきグループ内での行動ができる。
5	規律性	日常から与えられたルールを守るように心掛けている。	グループで決めた打合せ日程や連絡に対する返信ができる。	与えられた提出物を決められた提出日までに出すことができる。また間に合わない場合は早めの報告ができる。	ひとつひとつの約束にこだわり、言ったことはやりきる意識を持つことができる。	リーダーとして自分が率先してルールを守る姿勢をみせることができる。
6	ストレスコントロール力	グループ活動がうまくいかないときに、自分は前向きにいるように心掛けている。	グループ活動がうまくいかないときに、その原因を解消するような提案ができる。	グループ活動がうまくいかないときに、その対処法を考えて解決の方向に向かうことができる。	苦手意識をポジティブ思考に考えることができる。	コントロールするべきストレスか、耐えるべきストレスかを見極めることができる。
7	批判力	検索で出てきたことなどをそのまま鵜呑みにせず、他の本や資料などで確認するように心掛けている。	相手が言うことに対して、おかしいところがないか考えることができる。	行動決定をする際には、その理由を考えて行動することができる。	事実と、相手の意見とを区別して考えることができる。	相手が間違った情報で思い込んでいることを、正しい方向に導くことができる。

表３　筑波学院大学学生・卒業生ルーブリック（大項目Ⅲ　どのように学ぶか）

		学生ルーブリック				
				卒業生ルーブリック		
		First stage	Second stage	Third stage	Fourth stage	Fifth stage
1	課題発見力	現状や課題を把握するよう心掛けている。	現状や課題を明らかにするために、意欲的に情報収集ができる。	客観的で正確な情報を集め、その情報から課題を発見できる。	課題解決に向けての手立てを考えることができ、その方法を仲間に発信することができる。	課題解決に向けた手立てを組織として改善対応することができる。
2	計画力	与えられた課題の解決に向けての手順を実施するように心掛けている。	与えられた課題を解決するための手立てを計画し、実行できる。	与えられた課題を効率よく解決するための手立てを計画でき、状況や事態に合わせて修正できる。	実行した計画をフィードバックし、なぜうまくいったのかを考察できる。	実行した計画のうち、偶然の成功と、再現性のある成功を見極め、次に活かすことができる。
3	想像力	過去の事例を参考に提案しようと心掛けている。	過去の事例を参考に、いままでにないアイデアを考えることができる。	自ら考えたアイデアを実施するための計画を練り実行することができる。	計画を練る際に、想定されるアクシデントを想像することができる。	計画を練る際に、想定されるアクシデントに対しての対処法を、想像や準備することができる。

企業、NPO法人、自治体、地域の任意団体など、学生の力を必要として学生受け入れに協力している団体が2019年度は中長期の活動を行う実践科目Bで約80団体ある。受入団体はOCPの授業が始まった初年度から学生を受け入れている団体、2019年度に初めてOCPに参加する団体など様々である。なお、この15年間の間に解散した団体や、団体は存続しているものの、学生を受け入れていたプロジェクトが終了した、もしくは学生受け入れが負担になったなど、様々な理由で学生受け入れができなくなった団体もある。

15年関わっている団体と、１年目の団体では、経験の蓄積が違うため、OCPにより学生が関わることでの全団体内での成長変化の有意差は難しいかもしれないが、ルーブリックを提示して教育目標を共有しておくことにより、受け入れる学生に対してどのような方向を目指すように働きかければいいのかという道筋になると考えている。

実践科目Bで、これまで13年継続してきたOCPの外部団体に対する評価は、受入団体アンケートとして、毎年以下の３つの項目に対して５点満点で回答し、その理由も併せて記述する方式となっている。

１．今回の筑波学院大生の社会活動参加は貴団体に役立ったと思いますか？
２．今回の筑波学院大生の社会活動参加は学生の社会力の向上に役立ったと思いますか？
３．今回受け入れた学生の活動状況はどうでしたか？

このアンケートでは、長年OCPに関わっている団体は毎回同じような回答項目になってしまう傾向があり、前年度を振り返ることや、活動する団体側の変化等を調べることが難しい状態であった。そこで、本研究では、より効果的なアンケート方法について提案し、長年受け入れていただいている団体との目標共有にもつながるアンケート方法についてのルーブリックとして検討を行った[14)]。

表４　OCP 受入団体ルーブリック

	First stage	Second stage	Third stage
１．OCP 学生の組織運営への参画	OCP の活動期間だけは、学生が関わる機会が生まれた。	OCP の目安の30時間を超えてもさらに活動をしてくれる学生がいた。	OCP で行った活動を、学年をまたいでも自主的に続けてくれた学生がいた。
２．組織の方向性の変化	学生を受け入れるための担当者は特に配置しなかった。	必要な時だけ学生のための担当者を配置した。	学生を受け入れるための担当者を配置した。
３．イベント参加者の増加	学生を受け入れる前も、後も、活動やイベント参加者はそれほど変わらない。	学生を受け入れたことにより、活動やイベント規模や内容を増やすことができ、イベント参加者がわずかに増えた。	学生を受け入れたことにより、活動回数やイベント回数が増え、参加者が大きく増えた。
４．他団体との新たな関係／ネットワーキング	OCP をきっかけとしては、他団体と新たな関係が生まれることはなかった。	OCP がきっかけで他団体との交流が生まれた。	OCP がきっかけで他団体と協働した新たなプロジェクトを実施した。
５．大学の技術や専門性の活用	受け入れた学生が新しい技術や学生の専門性を活かすような場面はなかった。	受け入れた学生が専門性を活かしてくれた場面があった。	受け入れた学生が専門性を活かして、団体の活動に明らかにプラスとなるような実績があった。
６．新たな活動の開発	受け入れた学生には、既存の活動を行ってもらっている。	受け入れた学生と団体が協働して、新しい活動が生まれた。	受け入れた学生が主体となって新しい活動を立ち上げ、実施した。
７．財源確保の機会の増加	OCP をきっかっけに、財源は大きく変動していない。	OCP により、団体の活動規模が大きくなり、売上等の収入が増えた。	OCP により、助成金などの外部資金獲得に繋がった。
８．マンパワーの確保	受け入れた学生により、マンパワーが増えた。	毎年新たな参加学生が OCP を通じて来てくれ、継続的なマンパワーを得ることができている。	OCP の活動がきっかけで、OCP 学生以外からもマンパワーを得ることができるようになった。
９．社会力育成の対象となる若者層の変化	OCP 学生の受け入れを始めてからも、受け入れの対象とする若者は変わらない。	OCP 学生の受け入れをきっかけに、他大学の学生の社会力育成も行いはじめた。	OCP 学生の受け入れをきっかけに、他大学の学生のみならず、小中高校生の社会力育成も行いはじめた。
10．若者の社会力育成スタンスの変化	OCP 学生の受け入れを始めても、他の若者の受け入れのスタンスに特に変わりはない。	OCP 学生の受け入れを始めてから、他の若者の受け入れのスタンスがやや変わった。	OCP 学生の受け入れを始めてから、他の若者の受け入れに当たり、OCP 受け入れをとても参考にするようになった。

表４の受入団体向けのルーブリックについては、学生・卒業生ルーブリックとは別に３段階とした。当初は学生や卒業生と同様に５段階のルーブリックを検討をしていたが、受け入れ団体には、５つの段階を追う項目設定が難航を極めたため３段階とした。このルーブリックには学生を受け入れたことによる団体の成長や良い影響についてのステージを調査する目的がある。受け入れ年数が団体により違うため、長年の学生の受け入れと、１回しか学生を受け入れていない団体がある。よって、団体間の比較はできないと考えているが、団体の個別の変化という点では回答時期について、受け入れを始める前と、現在と時制が違う聞き方をすれば、成長度合いを比べる調査ができる。また、受け入れ年数が少

ない団体は、受け入れた学生をどのように活かし自らの団体を成長させていくかという指標になると考えている。

3．4．筑波学院大学教員・社会力コーディネーターに対するOCPルーブリックの検討

OCPのステークホルダーは、学生と受入団体だけでなく、学外での学びを学内で支援する教員、社会力コーディネーターも重要な役割を担っている。本稿では教員やコーディネーターに対するルーブリックの検討も行ったが、ルーブリックは学習目標の達成度を判断する評価のため、学生と受入団体との間に入って指導する、間接的な役割を担う教員がどのように変わったか、という評価は難しいと考えていた。つまり、ルーブリックはパフォーマンスの評価であり、直接的なパフォーマンスを行っていない教員がOCPを通じて自身がどのように成長したかを段階的に評価するのは難しく、ルーブリック評価はそぐわない。ただ、OCPを通じて学生を指導してきた教員やコーディネーターがどのように変化したのか、ということは別の形の評価方法で明らかにしたいと考えている。

4．今後の展望・考察　～OCP15年評価に向けて～

OCPは15年の間に、延約3,900人の学生が受講したプログラムである。今年度で区切りの15年となり、これから受講する学生に向けて、より良いプログラムを提供できるように改めて15年評価を行い、学生や受入団体に発信をすることにより、さらなるOCPの発展を目指す。そのためにも今回検討した定期的なルーブリック評価を行うことにより、学生自身に自己の成長の実感と、その成長を自身の通り道として今後の人生に活かしてもらう。またルーブリックを通して、受入団体とも改めて目標の共有を図り、これまでの協力をエンパワーメントすることで、さらなる連携体制を構築していきたい。

OCP15年評価をきっかけに作成したルーブリックは、学生・卒業生向けには、経済産業省の「人生100年時代の社会人基礎力」とOCPの要素を掛け合わせたルーブリックを検討した。受入団体には、団体にとって受け入れの指標となるような前向きなルーブリックを検討した。記述やヒアリング等で15年の変化と実感をまとめることで、15年評価をしたいと考えている。

これらのように、OCPに関わる学生・卒業生、受入団体といったステークホルダーへの15年評価を基にして、今後の15年に繋がるOCPのさらなる進化の機会としていく所存である。

＜参考文献＞

1）門脇厚司（1999）『子どもの社会力』岩波新書
2）金久保紀子･馬場　裕･武田直樹（2009）「OCP学生スタッフによる学生意識調査報告～実践科目で学んだものとは～」『筑波学院大学紀要第4集』pp.183～204
3）金久保紀子（2015）「卒業生はオフ・キャンパス・プログラムをどう評価しているか」『筑波学院大学紀要第10集』pp.139～154
4）武田直樹、金久保紀子（2015）「筑波学院大学オフ・キャンパス・プログラム10年間のチャレンジ」『筑波学院大学紀要第10集』pp.191～207
5）筑波学院大学OCP推進委員会（2019）「筑波学院大学オフ・キャンパス・プログラム平成30年度報告書」
6）西岡加名恵（2003）『教科と総合に活かすポートフォーリオ評価法 - 新たな評価基準の創出に向けて』図書文化
7）上越教育大学ホームページ「特色ある大学教育支援プログラム」確認日2019/10/18 https://www.juen.ac.jp/gp/tokushoku/

contents/03/index11.html
8）経済産業省ホームページ「社会人基礎力」 確認日2019/10/18
https://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/index.html
9）高知県教育委員会「高等学校の進路指導における生徒の自己実現に必要な「生きる力」の育成について」 確認日2019/10/18
https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/310308/files/2011080500128/2011080500128_www_pref_kochi_lg_jp_uploaded_life_91884_326750_misc.pdf
10）福岡県立早良高等学校「進路基礎力達成ルーブリック」確認日2019/12/10
http://upload.fku.ed.jp/sawara/common/SozaiFileDsp.aspx?c_id=196&id=540&flid=2072&redi=ON&set_doc=1
11）石垣明子（2016）「大学におけるルーブリック評価の開発　－医療人文学科目における社会人基礎力を涵養するルーブリック－」つくば国際大学研究紀要 No.22 p27-39
12）日経キャリア教育「キャリエデュ」 確認日2019/10/18
https://career-edu.nikkeihr.co.jp/
13）文部科学省中央教育審議会高等学校教育部会資料「批判的思考について」確認日2019/11/27
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/047/siryo/__icsFiles/afieldfile/2012/09/20/1325670_03.pdf
14）S. モルゲン、B.A. ホランド、A. ドリスコル、A. スプリング、S. ケリガン（山田一隆　監訳）（2015）『社会参画する大学と市民学習－アセスメントの原理と技法－』学文社